

農務部政務官が畜産現場を視察

米国大使館農務部のマーク・ウォレス首席農務官が2月1～2日、JA菊池を訪れ肥育や酪農、JAの畜産関係施設などの畜産生産現場を視察しました。日本農業の現場の理解、地域の農業従事者やJAのサポートのようすを確認するのが目的です。同大使館の農務スペシャリスト畜産担当の今泉晶さん、飼料担当の藤林慶子さんが同行し、農家の声を直接きかれました。

三角組合長と畜産担当職員との意見交換も行い交流を深めました。ウォレス氏は「飼料高騰や牛乳の需給関係など、畜産情勢が厳しい中、畜産農家の経営の今後について関心を持ち見させてもらった。現場の状況を正しく、質の高い情報として提供していきたい」と話されました。



畜産農家を視察



ウォレス氏（中央）と三角組合長ら



有機支援センターを視察



本所で意見交換会